

2022（令和4）年度 事業報告書

社会福祉法人 甲賀学園

総括

2022年度（令和4年度）は、法人設立60周年の節目を迎え、2022年11月3日（木）甲南情報交流センターにて、コロナ感染対策を講じた上で社会福祉法人甲賀学園創立60周年記念式典を開催し、盛況に終えることが出来た。またプレイベントとして同年6月には田中ヒロヤ氏の協力のもと、地域の方を招待し、映画「今日も明日も負け犬」を体育館で上映、8月には陶芸家杉本準一郎氏とのコラボイベントを企画し「ひかりを求めて」のテーマの下、パーティー作りを行った。

2022年度は二つの大きなプロジェクトに着手することとなった。一つは地域化、小規模化を目指し、分園型小規模グループケアホーム「うららか」の新規開設に向け動き、令和5年4月1日に約20年ぶりとなる当法人の新たな生活拠点が誕生した。もう一つは令和5年度、6年度事業として本体施設の「小規模化にかかる施設整備計画」の本格稼働に向け各関係機関等との調整を進め、基本設計を国に提出した。

次に2021年度に引き続き、新型コロナウイルス感染予防においては、新たな日常を作るために様々な感染対策を講じ、単発的な罹患者は発生したものの、大きなクラスターになることなく日常生活を送ることが出来ていた。しかし令和4年12月7日に児童5名の感染者が発生し、瞬く間に大規模クラスターとなり最終的には児童、職員含めて39名がコロナに罹患する結果となった。幸い後遺症や重篤化する者はおらず、一カ月ほどの厳戒態勢期間を経て終息を迎えた。

以下、事業計画の項目に基づき詳述していく。

1. 2022年度優先整備事項について

1. 地域化・小規模化に向けて

2021年度に法規制等の事情により、計画が難航した分園型小規模グループケアホーム「うららか」の新規開設であったが、行政機関等の協力と、小佐治区の地元住民の理解により、令和4年11月17日に工事が始まり、令和5年4月1日より開所することが出来た。

2. 高機能化・多機能化にむけて

令和元年10月策定、翌年3月に滋賀県に提出した「児童養護施設の高機能化および多機能化・機能転換、小規模かつ地域分散化計画」に則り、令和5年度、6年度事業として「小規模化にかかる施設整備計画」実行に向け、滋賀県並びに関係機関との調整を開始した。地域の支援の新たな拠点となるべく、本館とは別に地域支援棟の建設を目指してきたが、補助金申請を回るうえで補助金額の大幅減額が発覚し、計画を大きく変更せざるを得ない状況となった。その後急ピッチで計画を変更し、令和5年3月末に基本設計を終えることが出来た。

3. 事業の安定運営に向けて

2022年度の職員採用状況は、2023年度4月雇用となる新規採用者が6名、年度途中の既卒者採用が2名となった。多くはホームページに応募してきた者で、2021年度と傾向は類似している。新規採用者6名の内1名は実習を通しての採用に繋がったケースであった。

4. 施設の理解者の拡大に向けて

コロナの感染状況を見極めながらではあったが、後援会活動や見学研修の受入等により、施設の取り組みについて理解を広げる活動を続けた。開設に向けて動いた小規模グループケアホームうららかの古民家活用や、60周年のプレイベントで作成したパーティーションについては、新聞社の取材や地元テレビ局の取材を受け、多くの方々に施設の取り組みを知ってもらう機会になった。また、WEBを積極的に活用し、Zoom等を通して他団体と入所児童が交流する場を設けた。

2. 2022年度特別対応事項（新型コロナウイルス感染症対策関連）

1. 予防対策の徹底（日常レベル・環境整備・設備投資含む）

国の新型コロナウイルス感染症緊急経済対策に基づく国庫補助金を利用し、食毒液やマスク等の購入及び備蓄を続けた。また、感染予防対策として各ホームのトイレを非接触型に改修、老朽化したエアコンを空気清浄の性能を備え持つものを買換えを実施した。また随時、子どものワクチン接種を行い、職員に対してはワクチン休暇を昨年度に続き運用することで推進した。

2. メンタルヘルス対策（児童および職員）

施設独自の感染対策マニュアルを策定し、施設内の感染状況に応じて、出来る限りの日常生活を担保できるように努めた。その結果、感染状況が一定落ち着いていた時期には、外部との対面による交流も実施することができた。

3. 感染発生時の迅速対応（マニュアルの見直し等含む）

2022年12月に施設内クラスターが発生し、一気に感染対策マニュアルの警戒レベルを引き上げ、生活に枠を設けたが、これまでに培ってきた知見と、最新の情報を頼りに対応を行い、大きなパニックには繋がることなく、施設運営を行うことが出来た。

4. 施設運営の見直しと変革（with コロナ after コロナを意識した）

法人創立60周年記念式典やプレイベントをはじめ、時々の社会情勢を鑑みながら、出来る限りの対面式の交流の機会を設けるよう努めた。

【重点目標3項目に関して】

1. 地域に愛される施設を目指して

11月3日に法人創立60周年記念式典を開催し、これまで法人を支えてくださった各関係機関等に感謝の意を伝える場を設け、当日は団体3企業、個人2名に感謝状の贈呈を行った。また式典の後半では陶芸家杉本準一郎氏の講演と、シタール奏者サワン氏の演奏会を実施した。その他、甲賀学園後援会と連携しながら環境整備活動の実施、甲賀市の福祉関係部局と連携し一時預かりを実施した。一時預かり事業の実績としては、年間3ケース延べ日数26日の利用となった。

2. 住む人と働く人が誇りを持てる施設を目指して

2022年度は創立60周年を記念する事業を主に実施した。6月26日には体育館を会場に田中ヒロヤ氏主催の60周年記念イベント「今日も明日も負け犬」の映画鑑賞会を実施し、多くの地域住民をはじめ、関係者が来場した。8月11日には陶芸家杉本準一郎氏とのコラボイベントを開催、「ひかりを求めて」のテーマの下、パーティーション作りを実施した。これらのイベントを実施

し、60周年を祝うムードが施設内で醸成され、11月3日に60周年記念式典を盛況に終えることが出来た。年明け1月22日には映画イベントで繋がった気球パイロット石岡氏の御厚意により気球体験を実施でき、貴重な気球体験を行うことが出来た。また、60周年記念事業の1つとして、SVを通じた当施設の養育に関する考えを書籍化に向け動いた。このように1年を通して60周年を祝い、そしてこれまでの支援の輪を感謝する1年となった。

3. 多種多様な専門家が協働する施設を目指して

2022年度も引き続き、研修の機会や県内施設の職員間交流の機会が従来と比べると減少傾向であったが、Zoom等を活用し新たな形で施設間・多機関・多職種協働が行えるよう少しずつ仕組みを整えていった。また、感染防止対策を施した上で外部から専門家を招聘し、SV等の機会を保障した。

1. 監事関監査、評議員会・理事会の開催および役員等の業務執行状況

(1) 監事監査の結果

項目	内容
実施日時	令和4年5月18日(水) 午前10時から12時
実施場所	鹿深の家
立会人等	(理事長) 河合定郎、(施設長) 春田真樹 (監事) 森地万里子、平井 博 新経営サービス清水税理士法人
結果	(1) 事業報告等の監査結果 ① 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。 ② 理事の職務の遂行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。 (2) 計算関係書類及び財産目録の監査結果 計算関係書類及び財産目録については、法人の財産、収支及び純資産の増減の状況を全ての重要な点において適正に表示しているものと認めます。

(2) 評議員会の開催

開催数 開催年月日	評議員会ごとの出席者氏名			欠席者氏名	議 題
	評議員数 /定数 氏名	理事	監事		
定時評議員会 6/16					

	7/7 金田眞宏 植村恵子 黒川昌明 安井一夫 桐高とよみ 生田 雄 清水清博	河合定郎 杉森 正 井ノ口博己 上里弥生 青木小司 春田眞樹	森地万里子 平井 博	無	① 令和3年度事業報告の件 ② 令和3年度決算の件 ③ 社会福祉充実計画の承認の件 ④ 令和3年度社会福祉法人等指導監査の結果について
第2回 12/7	6/7 金田眞宏 植村恵子 安井一夫 桐高とよみ 生田 雄 清水清博	河合定郎 井ノ口博己 上里弥生 春田眞樹	森地万里子 平井 博	黒川昌明 青木小司 杉森 正	① 令和4年度一次補正予算の件
第3回 3/20	5/7 植村恵子 黒川昌明 安井一夫 桐高とよみ 生田 雄	杉森 正 井ノ口博己 上里弥生 青木小司 春田眞樹	森地万里子 平井 博	河合定郎 金田眞宏 清水清博	① 令和4年度二次補正予算の件 ② 令和5年度事業計画案の件 ③ 令和5年度当初予算の件 ④ 定款変更の件

(3) 理事会の開催

開催数 開催年月日	出席者数/定数	欠席者 氏 名	出席監事 氏 名	議 題
	出席者名			
第1回 5/30	6/6	無	森地万里子 平井 博	① 令和3年度事業報告の件 ② 令和3年度決算の件 ③ 社会福祉充実計画承認の件 ④ 定時評議員会開催の件 ⑤ 賃金規程の改訂の件 ⑥ みどりさん奨学金支援制度の規約、実施要綱の改訂の件 ⑦ 令和3年度社会福祉法人等指導監査の結果の件 ⑧ 本館の改築に向けた設計監理業者の選定の件 ⑨ 管理規程の改訂の件 ⑩ 法人外での就業許可願の件

第2回 6/18	5/6	井ノ口博己	森地万里子 平井 博	① 育児・介護休業規程の改訂の件 ② 本館の設計に係る設計業者の選定の件 ③ 第3回理事会、第2回評議員会の同日開催の件
	河合定郎 杉森 正 上里弥生 青木小司 春田真樹			
第3回 12/7	5/6	青木小司	森地万里子 平井 博	① 令和4年度一次補正予算の件 ② うららかの設備備品に係る業者の選定および入札の実施の件 ③ 特別自立支援金制度申請の件 ④ みどりさん奨学支援制度申請の件
	河合定郎 杉森 正 井ノ口博己 上里弥生 春田真樹			
第4回 3/2	6/6	無	森地万里子 平井 博	① 令和4年度第二次補予算の件 ② 令和5年度事業計画の件 ③ 令和5年度当初予算の編成の件 ④ 定款変更の件
	河合定郎 青木小司 井ノ口博己 上里弥生 杉森 正 春田真樹			

(3) 施設外研修・施設内研修に対する役員の参加状況

本体施設の改修工事の参考にするため、建替を行った児童養護施設「守山学園」の見学研修を行った。施設内における研修については、地域の感染状況を見ながら、感染予防対策を実施した上で開催した。

施設外研修

日付	研修会名	主催/大会テーマ	参加者
12/1	施設見学研修	守山学園の見学研修	理事会 河合定郎 青木小司 井ノ口博己 森地万里子 評議員会 植村恵子 後援会 打田絹子 森嶋直子 橋本善信 辻 好子

施設内研修

日付	講師/概要	参加者
7/1	滋賀県社会福祉協議会より担当者 2 名 『アフターケア事業と貸付金の研修会』	理事長
2/3	READY FOR 株式会社 斎藤 氏 『クラウドファンディング研修』	理事長

(4) 職員会議に対する役員の参加状況

職員会議実施日時	参加者名（※新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、10月より役員の会議への参席を再開した）	
4/12	理事長	
5/6	理事長	
6/3	理事長	
7/1	理事長	
9/3	理事長	
10/1		杉森正
11/2		井ノ口博己
12/2		青木小司
1/7	理事長	上里弥生
2/3	理事長	森地万里子
3/7		

2. 理事会および評議員会、監事の体制

理事定数 6 任期 2021 年 6 月～2023 年 6 月（2 年間）

評議員定数 7 任期 2021 年 6 月～2025 年 6 月（4 年間）

監事定数 2 任期 2021 年 6 月～2023 年 6 月（2 年間）

理事会	理事長 河合定郎 杉森 正 井ノ口博己 上里弥生 青木小司 春田真樹
評議員会	金田眞宏 植村恵子 黒川昌明 安井一夫 桐高とよみ 生田雄 清水清博
監事	森地万里子 平井 博

3. 鹿深の家の 10 年計画

2023 年度からの本館大規模改修に向けて、行政側と協議しスケジュールを立てた。事業については、特に地域支援や里親支援等に力を入れ、体制基盤づくりを強化した。

4. その他（後援会の協力体制）

主な活動内容

事業内容	詳細
広報活動	<p>① 定期刊行物として鹿深の家だよりを発行 第109号 令和4年9月 第110号 令和5年2月</p> <ul style="list-style-type: none">・後援会会報発行 令和5年2月1日 発行方法…ホームページ及び郵送、甲賀町回覧 <p>② ホームページの運用 法令で定められた内容について公開 役員名簿、諸規程（定款、評議員選任・解任委員会運営細則、役員及び評議員の報酬並びに費用弁償に関する規程）、事業計画および事業報告、計算関係書類、現況報告、苦情解決、第三者評価、その他、法人の活動や施設の紹介等</p>
地域交流	<p>法人創立60周年記念式典実施（令和4年11月3日） コロナ禍のため、例年どおりの鹿深まつりは今年度も実施できなかったが、法人創立60周年記念式典を甲賀市忍びの里・プララにて実施した。コロナ禍のため感染防止の観点から参加者を最小限にして行った。 いつもご支援、応援してくださっている地域の皆様、関係者の皆様にご出席いただき、今までの感謝とこれからの頑張りを見守ってもらえればと思っている。 式典では、8月にプレイベントとして実施したパーティーづくりをお手伝いいただいた彫刻家 杉本準一郎氏の講演、シタール奏者、サウン・ジョシ氏の演奏を行った。</p>
後援会組織	<p>活動に当たっては、卒園する子どもの現状を踏まえ、後援会として応援しているというメッセージを伝えるため、自立支援に重点をおいた活動を行った。 また役員には当施設の理解を深めてもらうため、通学路の清掃ボランティア、ゆずジャムづくりなどをして子どもたちの応援をしている。 将来の建物の大規模改修に向けて、どのような形で支援の輪を広げていくのかということについて検討していくと共に、施設の現状を地域の方に知ってもらえる手立てを今後も検討していく。 12月には、本館改築に向けて、守山学園が本館工事を行われたので、参考にするため施設見学を行った。</p>